

2015年度(平成28年3月期) 第3四半期決算説明資料

2016年2月2日

株式会社 IHI



1. 2015年度第3四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益及び特別損益.....	8
連結貸借対照表.....	10
補足資料.....	12

2. 2015年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	15
報告セグメント別内訳.....	16

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	20
社会基盤・海洋.....	22
産業システム・汎用機械.....	24
航空・宇宙・防衛.....	26

<参考資料>.....	28
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2015年度第3四半期 連結決算

1. 2015年度第3四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2015年度3Q 売上平均レート(米ドル) 120.13円

(億円)

	'14年度3Q	'15年度3Q	増 減
受 注 高	11,434	9,860	▲ 1,574
売 上 高	9,740	10,581	841
営 業 利 益	456	55	▲ 401
経 常 利 益	458	19	▲ 438
税金等調整前 四半期純利益	458	▲ 453	▲ 911
親会社株主に帰属する 四半期純利益	268	▲ 342	▲ 611

1. 2015年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受 注 高			受 注 残 高		
	'14年度3Q	'15年度3Q	増 減	'14年度末	'15年度3Q	増 減
資源・エネルギー・環境	4,372	3,320	▲ 1,051	7,604	7,852	247
社会基盤・海洋	1,337	1,045	▲ 291	2,319	2,226	▲ 93
産業システム・汎用機械	2,936	3,172	235	1,210	1,478	268
航空・宇宙・防衛	2,600	2,249	▲ 351	5,107	4,144	▲ 962
報告セグメント計	11,247	9,788	▲ 1,459	16,241	15,701	▲ 540
その他	582	478	▲ 104	312	330	18
調整額	▲ 395	▲ 406	▲ 11	-	-	-
合計	11,434	9,860	▲ 1,574	16,554	16,031	▲ 522

海外受注高・受注残高	5,995	4,325	▲ 1,669	8,087	6,586	▲ 1,501
海外受注高・受注残高比率	52%	44%	▲ 8%	49%	41%	▲ 8%

1. 2015年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'14年度3Q	'15年度3Q	増減	'14年度3Q	'15年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,688	3,126	437	118	▲ 74	▲ 193
社会基盤・海洋	1,252	1,117	▲ 134	▲ 7	▲ 357	▲ 350
産業システム・汎用機械	2,908	2,894	▲ 13	69	72	2
航空・宇宙・防衛	2,864	3,346	482	309	434	124
報告セグメント計	9,713	10,485	771	490	74	▲ 416
その他	373	415	42	0	5	4
調整額	▲ 346	▲ 318	27	▲ 34	▲ 24	10
合計	9,740	10,581	841	456	55	▲ 401

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合 計
資源・エネルギー・環境	38	▲ 196	8	▲ 43	▲ 193
社会基盤・海洋	▲ 11	▲ 336	1	▲ 4	▲ 350
産業システム・汎用機械	▲ 4	35	6	▲ 34	2
航空・宇宙・防衛	37	64	85	▲ 61	124
報告セグメント計	60	▲ 433	100	▲ 142	▲ 416
そ の 他	9	2		▲ 6	4
調 整 額		14		▲ 4	10
合 計	69	▲ 417	100	▲ 152	▲ 401

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2015年度第3四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益

(億円)

	'14年度3Q	'15年度3Q	増 減
金融収支	▲ 11	▲ 5	6
持分法による投資損益	▲ 6	21	28
為替差損益	90	▲ 23	▲ 113
その他	▲ 69	▲ 29	40
営業外損益	1	▲ 35	▲ 37

	'14年度3Q	'15年度3Q	増 減
契約納期遅延に係る費用	—	▲ 472	▲ 472
特別損失	—	▲ 472	▲ 472

1. 2015年度第3四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益(契約納期遅延に係る費用)

契約納期遅延に係る費用の内容

当社が受注し、引渡し前の複数のボイラ工事において、当社の在インドネシア子会社であるPT Cilegon Fabricatorsで製作した溶接部位の一部に、設計指示と異なる溶接材料の使用(溶接不適合)が判明しました。

この溶接不適合への対応に伴う工事遅延などに起因して、複数の案件で契約納期を守れない可能性が高まっております。

また、トルコ イズミット湾横断橋建設工事につきましては、2015年3月に発生しました足場(キャットウォーク)落下事故の復旧工事完了後、工程遅延を挽回すべく建設工事を鋭意進めてまいりましたが、2016年2月の契約納期までの工事完成は難しい状況となりました。

引き続き、安全かつ確実に早期の工事完成に向けて作業を進めてまいりますが、契約上定められている契約納期遅延に係る費用を請求される可能性を考慮し、その損失見込み額472億円を特別損失に計上しました。

1. 2015年度第3四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'14年度末	'15年度3Q末	増 減
資産合計	16,908	17,859	950
(うち 売上債権)	(4,382)	(4,275)	(▲ 107)
(うち 棚卸資産)	(3,993)	(4,756)	(763)
負債合計	13,312	14,760	1,447
(うち 仕入債務)	(3,001)	(2,709)	(▲ 292)
(うち 前受金)	(1,251)	(1,795)	(544)
(うち 有利子負債残高)	(4,106)	(4,740)	(633)
純資産合計	3,595	3,099	▲ 496
株主資本	3,135	2,699	▲ 435
その他の包括利益累計額	322	258	▲ 64
負債・純資産合計	16,908	17,859	950
D/Eレシオ(※)	1.14倍	1.53倍	0.39倍

有利子負債残高には、リース債務残高('14年度末:172億円, '15年度3Q末:180億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

連結貸借対照表

(Estaleiro Atlântico Sul S.A. (EAS:アトランチコスル造船会社)の状況)

2014年度 連結決算時に織り込んだ損失について

当社の持分法適用会社Estaleiro Atlântico Sul S.A. (アトランチコスル造船会社。以下、「EAS」) については、ブラジル経済の急速な悪化やブラジル国営石油公社Petróleo Brasileiro S.A. に関連する大規模な汚職事件の影響により、財政状態および資金繰りが大きく悪化しました。

2014年度連結決算において、今後のEASの事業から発生する可能性が見込まれる損失に備えて、想定可能なブラジル投資に係る損失見積額290億円を、特別損失として計上しました。

2015年度第3四半期 連結決算時点での状況について

2015年度第2四半期において、保証債務の一部が返済期限を迎えたため、保証履行しましたが、2014年度連結決算において計上した関係会社損失引当金を超える追加損失は発生していません。

当該損失の顕在化抑制に向けた取り組みを、継続して行なっていきます。

<関係会社損失引当金残高> (単位:億円)

	'14年度末	'15年度3Q末	増 減
E A S 関 連	215	207	▲ 8
そ の 他	10	11	1
合 計	225	218	▲ 7

<EAS関連 保証債務残高>

	'14年度末	'15年度3Q末	増 減
E A S 関 連	194	108	▲ 85

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'14年度3Q	'15年度3Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	12	▲ 166	▲ 178
投資キャッシュ・フロー	▲ 554	▲ 411	143
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 542	▲ 577	▲ 35
財務キャッシュ・フロー	750	519	▲ 230

1. 2015年度第3四半期 連結決算 補足資料

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'14年度3Q	'15年度3Q
研究開発費	229	282
設備投資額	395	325
減価償却費	308	338

設備投資額、減価償却費は、有形固定資産に係る金額を示しています。

(3) 海外売上高 (億円)

	'14年度3Q	'15年度3Q
ア ジ ア	1,283	1,343
中 国	534	590
北 米	1,961	2,560
中 南 米	247	168
欧 州	1,268	1,087
そ の 他	100	270
合 計	5,395	6,021
海外売上高比率	55%	57%

2. 2015年度 連結業績見通し

2. 2015年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル 115円
(第4四半期) ユーロ 130円

(億円)

	前回見通し ('15年度通期) A	今回見通し ('15年度通期) B	増 減 B-A
受 注 高	16,000	15,000	▲ 1,000
売 上 高	15,800	15,500	▲ 300
営 業 利 益	500	250	▲ 250
経 常 利 益	380	150	▲ 230
親会社株主に帰属する 当期純利益	180	▲ 300	▲ 480

前回見通しは、2015年11月4日公表の業績予想数値です。

(参考) 為替感応度(為替相場1円の変動により、営業利益に与える影響額)
米ドル 4億円 ユーロ 0億円

2. 2015年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('15年度通期)	今回見通し ('15年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	5,300	4,300	▲ 1,000
社会基盤・海洋	1,400	1,400	0
産業システム・汎用機械	4,200	4,200	0
航空・宇宙・防衛	4,900	4,900	0
報告セグメント計	15,800	14,800	▲ 1,000
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 500	▲ 500	0
合 計	16,000	15,000	▲ 1,000

前回見通しは、2015年11月4日公表の業績予想数値です。

2. 2015年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’15年度通期)		今回見通し (’15年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	4,800	240	4,500	20	▲ 300	▲ 220
社会基盤・海洋	1,800	▲ 310	1,800	▲ 390	0	▲ 80
産業システム・汎用機械	4,100	120	4,100	120	0	0
航空・宇宙・防衛	4,900	470	4,900	490	0	20
報告セグメント計	15,600	520	15,300	240	▲ 300	▲ 280
そ の 他	700	20	700	20	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 40	▲ 500	▲ 10	0	30
合 計	15,800	500	15,500	250	▲ 300	▲ 250

前回見通しは、2015年11月4日公表の業績予想数値です。

2. 2015年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳

(営業利益通期見通しの前回公表比増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合 計
資源・エネルギー・環境	▲ 30	▲ 190			▲ 220
社会基盤・海洋	20	▲ 90	▲ 10		▲ 80
産業システム・汎用機械					0
航空・宇宙・防衛			10	10	20
報告セグメント計	▲ 10	▲ 280	0	10	▲ 280
そ の 他					0
調 整 額		30			30
合 計	▲ 10	▲ 250	0	10	▲ 250

3. 報告セグメント別の概況

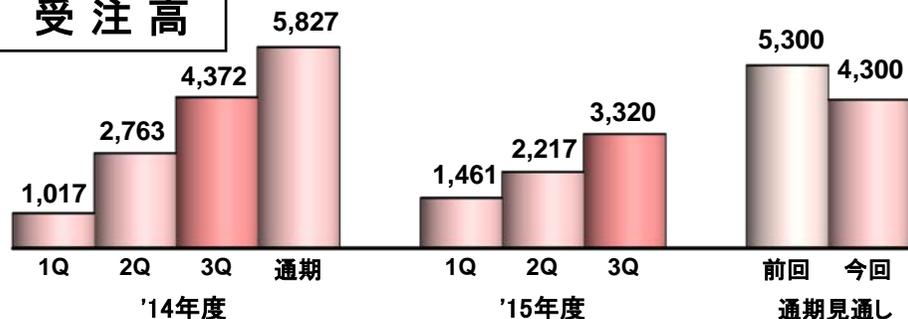
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

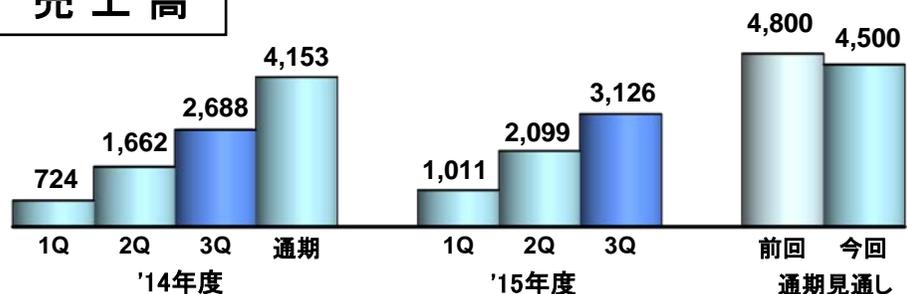
前回: 2015年11月4日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, ガスプロセス, 原子力, 環境対応システム, 医薬

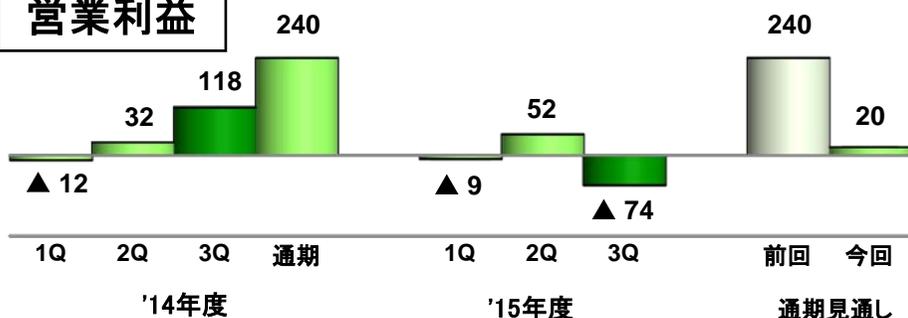
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

ガスプロセスにおいて前年同期に米国向けコーブポイント天然ガス液化設備の受注があったことの反動により、前年同期に比べ減少しました。

【売上高】

米国向けコーブポイント天然ガス液化設備の工事が順調に進捗しているガスプロセスの増加等により、前年同期に比べ増収となりました。

【営業利益】

ボイラにおいて、溶接不適合により補修が必要となった工事(4工事)で大幅な採算悪化となり、営業赤字となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高は、原油安の影響による海外向けガスプロセス案件の受注期ずれなどにより、大幅に減少としました。

売上高は、ガスプロセスの受注期ずれの影響、一部工事の進捗遅れにより、減収としました。

営業利益は、減収の影響、及びボイラの溶接不適合による補修費用の発生により、大幅な減益としました。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高							
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
ボ イ ラ	1,762	1,400	203	420	643	885	182	447	569	850
原 動 機 プ ラ ン ト	396	400	39	87	169	289	43	90	198	300
陸 船 用 原 動 機	789	800	153	342	507	756	209	376	577	750
ガ ス プ ロ セ ス	1,371	300	120	312	629	978	306	634	951	1,200
原 子 力	335	300	29	104	162	302	34	103	137	300

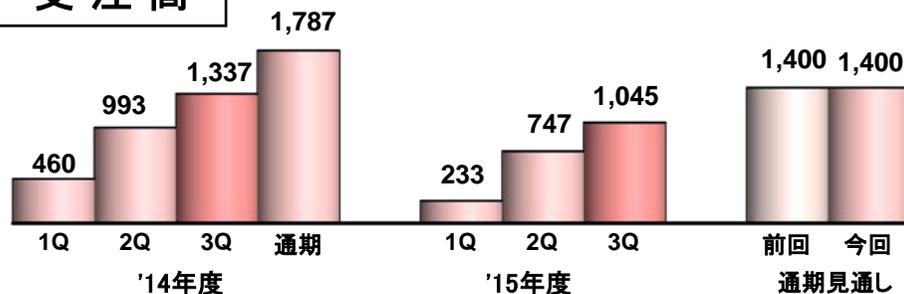
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

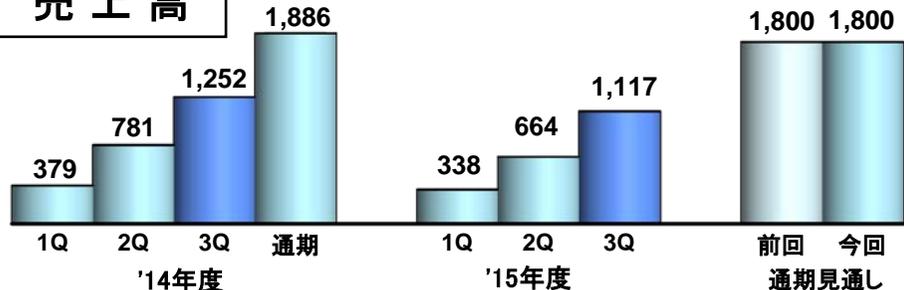
前回: 2015年11月4日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁, 水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発, F-LNG, 海洋構造物

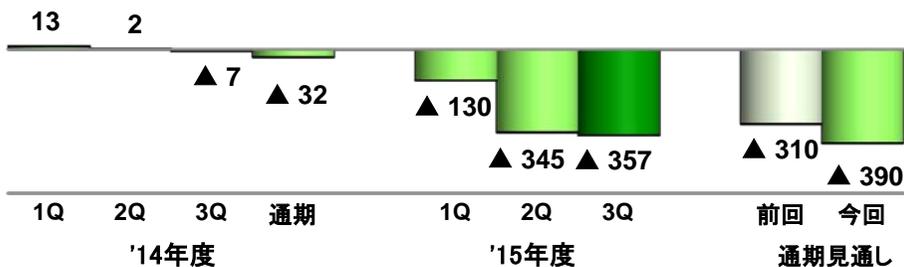
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

当第3四半期連結会計期間にバングラデシュ向け橋梁建設及び既存橋改修事業等の受注がありましたが、現在受注活動を実質的に停止しているF-LNG・海洋構造物において前年同期に大型案件受注があったことの反動や、水門の減少により、前年同期に比べ減少しました。

【売上高】

トルコ イズミット湾横断橋建設工事の売上高が減少した影響などにより、前年同期に比べ減収となりました。

【営業利益】

F-LNG・海洋構造物における愛知工場の生産混乱に伴う追加費用の計上のほか、トルコ イズミット湾横断橋建設工事における工程キャッチアップ費用の計上により、営業赤字となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高, 売上高は, 都市開発での分譲売上の前倒しによる増加は見込まれるものの, 一部工事の進捗遅れなどにより, 全体では変更ありません。

営業利益は, 分譲売上の前倒しによる増益はありますが, F-LNG・海洋構造物およびトルコ イズミット湾横断橋建設工事の採算悪化により, 減益としました。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高							
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
橋 梁	334	600	210	421	670	942	154	297	472	700
F-LNG・ 海洋構造物	384	3	8	77	117	168	36	68	144	300
都 市 開 発	160	170	78	113	149	192	51	88	127	170

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P31、P32の<参考資料>をご覧ください。

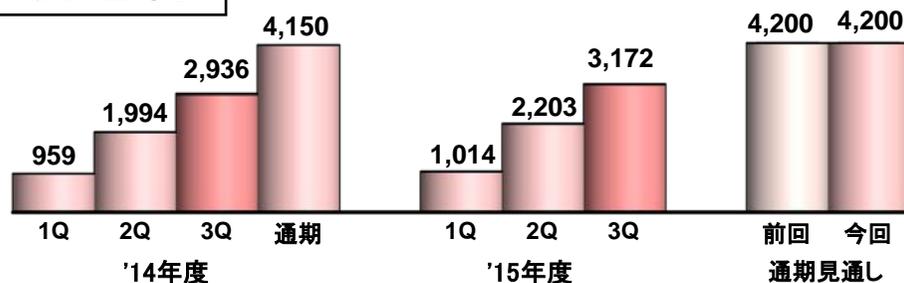
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

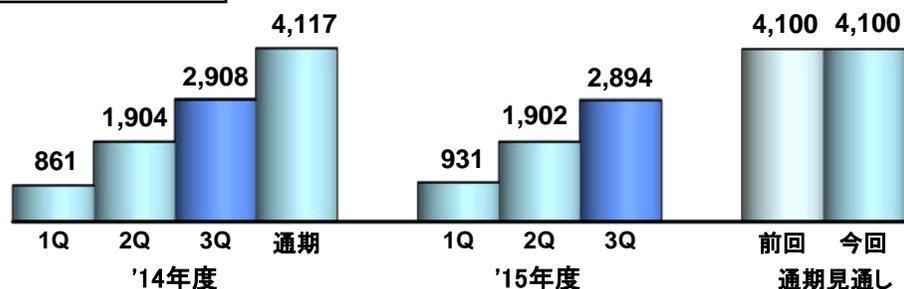
前回: 2015年11月4日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械, 車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機, 建機, 農機, 小型原動機

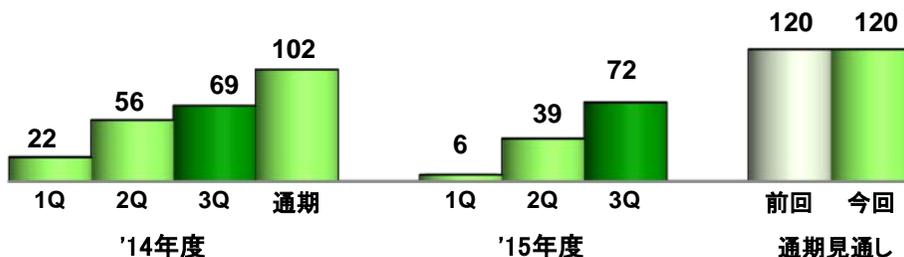
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

物流システム, 運搬機械及び圧縮機の増加により, 前年同期に比べ増加となりました。

【売上高】

熱・表面処理の増収があったものの, 製紙機械の減収により, 前年同期に比べほぼ横ばいとなりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

	3Q	通期
'14年度	439	589
'15年度	407	549

【営業利益】

熱・表面処理の増収効果や車両過給機の採算改善があったものの, 研究開発費など販管費の増加により, 前年同期に比べほぼ横ばいとなりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高							
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
運搬機械	282	300	28	68	140	204	35	98	156	250
パーキング	398	400	65	167	271	421	87	195	298	400
熱・表面処理	292	300	45	112	171	275	70	145	231	300
車両過給機	1,682	1,650	407	832	1,233	1,677	440	828	1,218	1,650
圧縮機	286	300	44	105	174	261	49	120	180	300

「車両過給機」の詳細は、P30の<参考資料>をご覧ください。

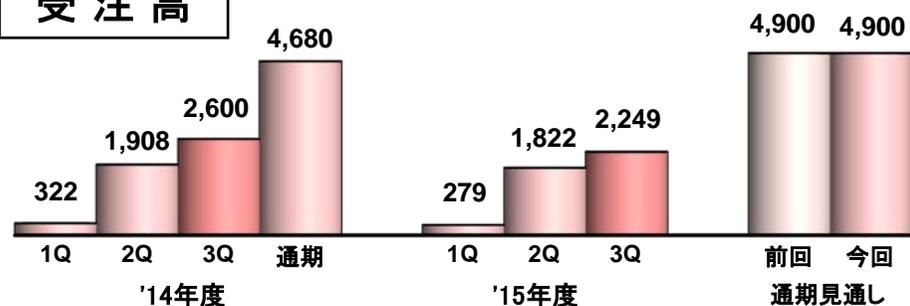
3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

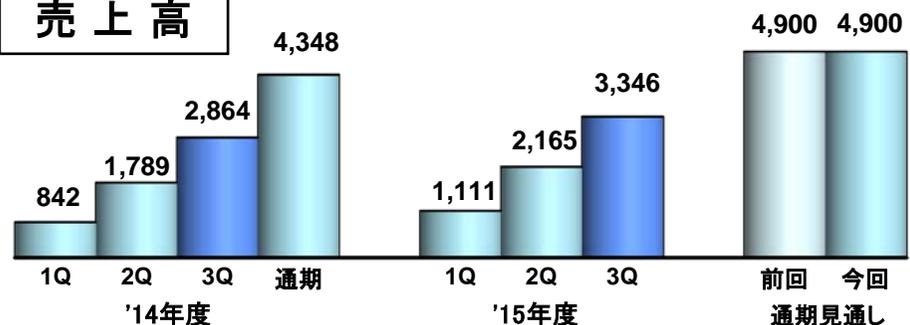
前回: 2015年11月4日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

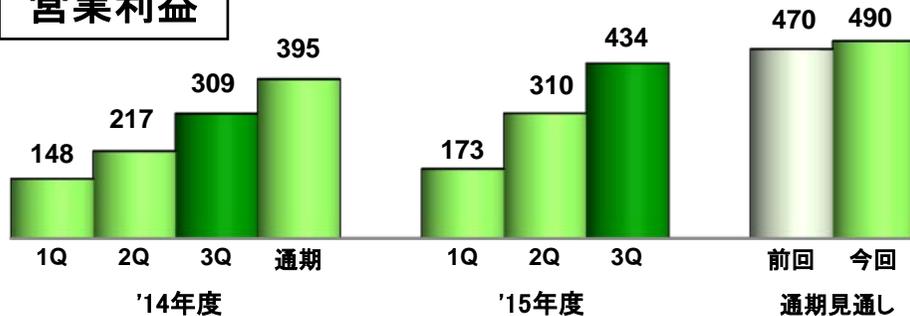
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

ロケットシステム・宇宙利用及び防衛省向け航空エンジンの減少により、前年同期に比べ減少しました。

【売上高】

為替円安の影響などにより民間向け航空エンジンが増加したことや、防衛機器システムにおいて艦艇用ガスタービンの引渡しがあったことなどにより、前年同期に比べ増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

	3Q	通期
'14年度	1,046	1,352
'15年度	957	1,380

【営業利益】

次世代大型機用航空エンジンGE9Xに関わる開発費などの増加があったものの、上述の増収効果及び民間向け航空エンジンの採算改善により、前年同期に比べ増益となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

営業利益は、為替の影響、販管費の減少など第3四半期連結累計期間までの実績を踏まえて、増益としました。

受注高, 売上高は変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高							
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
民間向け 航空エンジン	2,535	2,800	625	1,267	1,973	2,670	778	1,490	2,242	2,950

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P29の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料①>

- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14年度				'15年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
売上高	1,436	1,698	2,260	625	1,267	1,973	2,670	778	1,490	2,242	2,950	

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)											主要搭載機
	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15/3Q	
V2500	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,801	エアバス A319/320/321
GE90	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,211	ボーイング B777
CF34	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,394	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx							118	259	468	751	966	ボーイング B787/B747-8
合計	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,372	

(注)販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14年度				'15年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
日 本	331	339	353	90	184	275	375	84	172	255	330	
ア ジ ア	169	248	298	72	137	207	275	78	129	166	220	
中 国	143	181	234	63	128	175	243	71	118	179	280	
北 米	11	13	16	4	9	13	18	5	12	18	20	
中 南 米	0	0	0	0	0	1	7	8	16	24	30	
欧 州	437	432	602	176	372	558	756	192	378	573	770	
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,094	1,216	1,507	407	832	1,233	1,677	440	828	1,218	1,650	

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14年度				'15年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
賃貸収入	95	92	91	22	46	69	93	25	50	76	101	

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'15年度3Q	76	28	18	29

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工

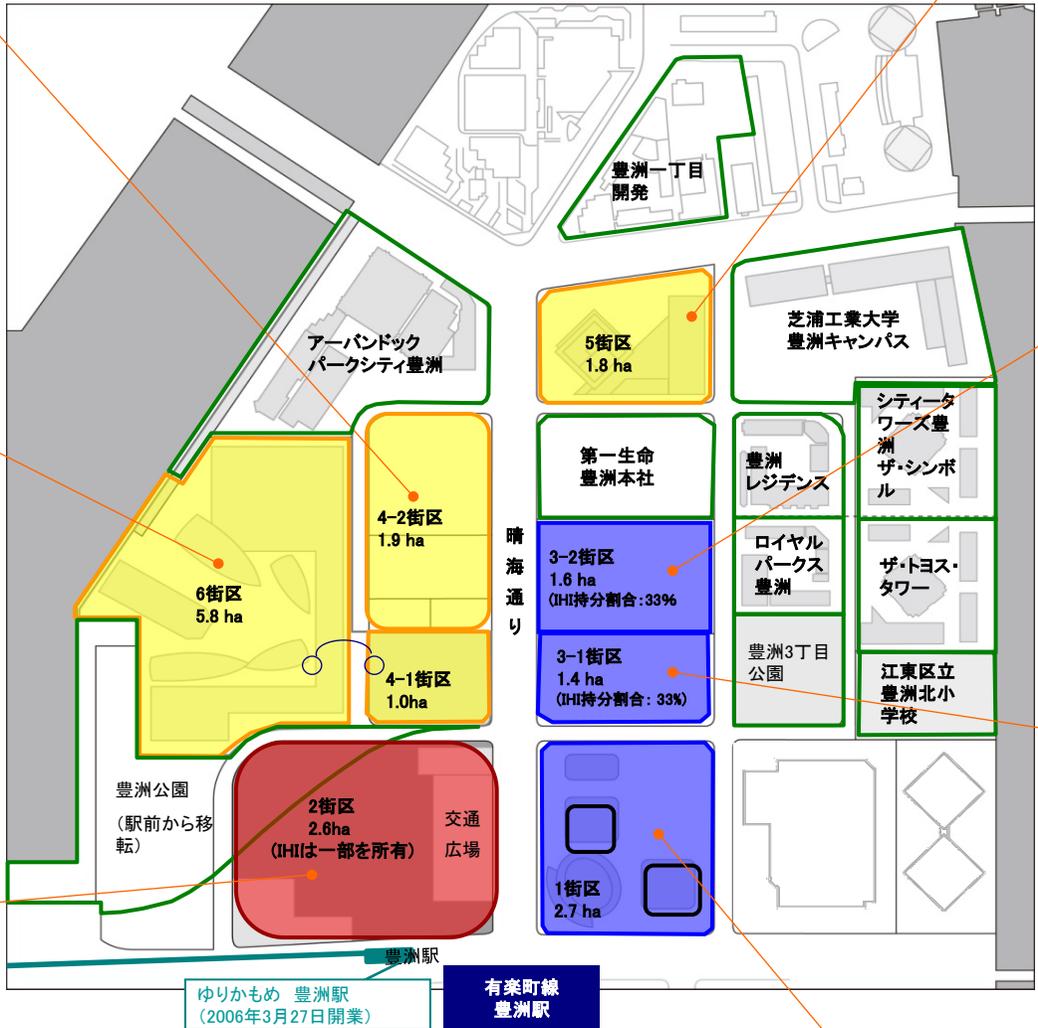


アーバンドック ららぽーと豊洲 (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 売り場面積：62,000㎡
2006年10月開業



事務所棟 (IHI, 三井不動産) 開発中

シンビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：建設工事中



豊洲Hビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工

豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工



IHI所有地	約14ha
--------	-------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

＜参考資料②＞

「グループ経営方針2013」進捗状況

「グループ経営方針2016」の目指す方向性

「グループ経営方針2013」進捗状況 海外大型案件の進捗状況

コーブポイント天然ガス液化設備(米国・ドミニオン社)



完成予想図



2015年12月現在

IHI/Kiewitジョイントベンチャーでは、2015年12月末現在で、設計はおよそ97%完了し、機器の発注は96%以上完了しています。建設は22%完了しています。杭は全て設置されました。主熱交換器が据え付けられました。パイプ、構造用鋼の架設は進行中です。パイプと構造用鋼の製作は進行中です。



主熱交換器据付



液化エリア配管架設

主要工程

- 2013年4月: 契約締結
- 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認(仮設工事着工承認)
- 2015年3月: 起工式挙行
- 2015年10月: 主熱交換器の現地搬入
- 2017年中頃: メカニカル・コンプリーション(機械的完成)
- 2017年末: 完成, 運転開始

プロジェクト概要

- ・受注者: IHI E&C International Corporation (IHI E&C) と Kiewit Energy Company のジョイントベンチャー (IHI/Kiewit ジョイントベンチャー)
- ・受注内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転および運転開始

「グループ経営方針2013」進捗状況 2015年度第3四半期の取り組み①

資源・エネルギー・環境

国内最大の卸電気事業者である電源開発株殿から、世界最高水準の蒸気温度条件によって、世界最高水準の発電効率を実現する、超々臨界圧大型石炭火力発電ボイラ(出力600 MW×1基)に関する、設計・調達・製作・据付業務を受注しました。

今回受注したボイラは蒸気を超高温・超高压化することで発電効率を高め、燃料の使用量と二酸化炭素の排出量を抑制することが可能です。また、世界最高水準の蒸気温度条件を実現することで、発電効率の更なる向上による低炭素化と大気環境の保全に大きく貢献します。



＜IHI製ボイラが納入されている、磯子火力発電所＞
(写真提供: J-POWER[電源開発株])



＜建設工事および既存橋改修事業 計画地＞

社会基盤・海洋

当社の子会社である(株)IHIインフラシステムが、(株)大林組、清水建設(株)、JFEエンジニアリング(株)と共同企業体を組成のうえ、バングラデシュ人民共和国 道路交通・橋梁省 道路局 国道部から「カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事および既存橋改修事業」を受注しました。

本工事では、鋼管矢板井筒基礎や連続細幅箱桁など難易度の高い技術を多数使用します。これまで培った技術、ノウハウを用いて工事を予定通り完成させることで、バングラデシュの経済発展に貢献していきます。

「グループ経営方針2013」進捗状況 2015年度第3四半期の取り組み②

産業システム・汎用機械

ドイツに本拠地を有し、同国を中心に展開する総合熱処理受託サービスのリーディング企業である、VTN Beteiligungsgesellschaft GmbH(現社名IHI VTN GmbH)の全持分を取得しました。

熱処理技術は、金属や非金属などの材料に求められる機能の多様化・高度化に伴い、産業機械・自動車・航空分野などの部品を中心に、利用拡大が見込まれています。

今後、欧州における熱処理分野の受託サービス事業に本格参入し、お客さまへ更に魅力ある装置と熱処理プロセスの提案を行なっていきます。



<「PW1100G-JM」エンジン>

(写真提供:一般財団法人日本航空機エンジン協[JAEC])

航空・宇宙・防衛

当社が一般財団法人日本航空機エンジン協会の下、米Pratt & Whitney, 独MTU Aero Engines AGと共同開発を行ってきた「PW1100G-JM」エンジンを搭載したエアバス社「A320neo」が、欧州航空安全庁と米連邦航空局より型式証明を取得し、本年1月20日には「A320neo」初号機がエアバス社からルフトハンザ航空へ引き渡されました。

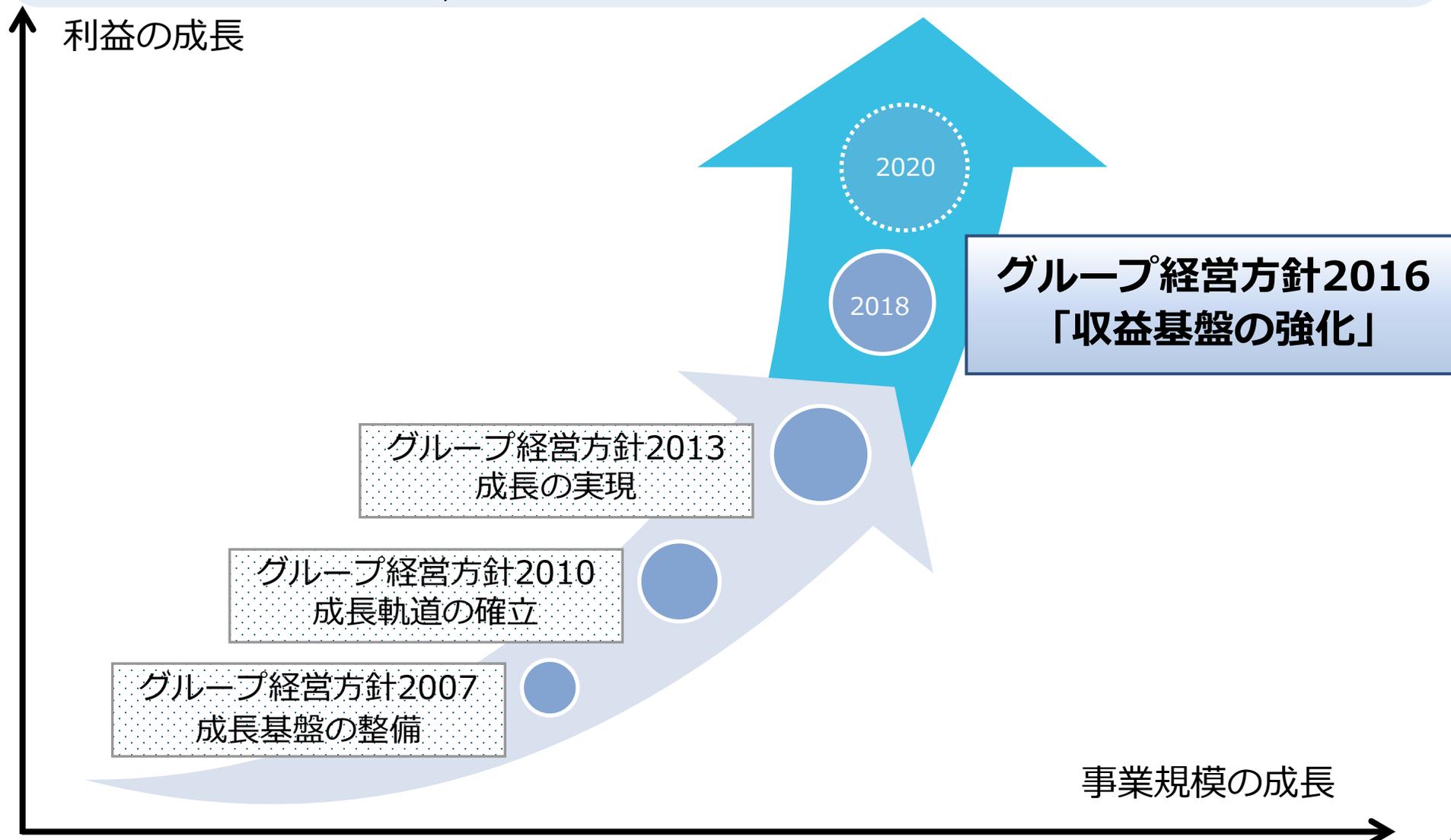
当社は、「PW1100G-JM」にプログラムシェア15%で参画しており、複合材をはじめとする独自の素材・ものづくり技術をもとに、ファン、低圧圧縮機などの主要部品の開発・設計・製造を担当しています。「PW1100G-JM」は、すでに2,000台以上の受注があり、今後、安定した事業の柱になることが期待されています。

今後も、多岐にわたる先進的なものづくり技術によってサプライチェーンの一翼を担い、航空業界の発展に貢献するとともに、安全で快適な航空機の運航に貢献していきます。

「グループ経営方針2016」の目指す方向性①

＜IHIグループビジョン＞

IHIグループは、21世紀の環境、エネルギー、産業・社会基盤における諸問題を、ものづくり技術の中核とするエンジニアリング力によって解決し、地球と人類に豊かさと安全・安心を提供するグローバルな企業グループとなる。



「グループ経営方針2016」の目指す方向性②

メガトレンド

「グループ経営方針2013」

パラダイム転換

- ・ライフサイクル重視
- ・市場ニーズ重視
- ・グローバルな事業運営

課題

加速する
高度情報化

多様化する
社会インフラ

複雑化する
世界経済

ものづくり技術を
中核とした
エンジニアリング力

「グループ経営方針2016」

戦略実行力の強化

安定的な
工事利益の確保

お客さま価値の
把握と創造

取 り 組 み

新たなポートフォリオ
マネジメントによる
集中と選択

プロジェクト遂行
体制の強化による
収益力向上

グループ共通機能の
活用によるビジネス
モデル変革

収益基盤の強化

持続的な成長と企業価値向上の実現

IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。